半島へ、ふたたび

著者名	蓮池薫	発行年	2009年
出版社名		ページ数	252ページ
値段	1,400円	ISBN	4-103165316
コメント	振幅の大きな経験をくぐった人は、さりげないものを目にしても感じ方の深さが違う。 まさに経験が人の器を大きくするんだ、と痛感します。 すぐ隣にある国の、とても分かりにくい実像。		

読者投稿欄

コメント登録

ペンネーム お勧め度	コメント			
	読んだ場所	読んだページ数（時間）	立ち読みポイント	投稿時間
あ、あめふと２号 ☆☆☆	拉致被害者の蓮池薫さんの話で、初め読み進めていっても、これって蓮池さんの旅行のはなし？としか思わなかったが、だんだん当時の話が出て来て、「殴られて腫れ上がったまぶだのすき間からみた最後の日本」などのフレーズが出てくるとリアリティを感じてしまい拉致というものに恐怖を感じた。			
	1-54	54P (30分)		2010/02/14 14:32:55
TD ☆☆	淡々とした韓国のルポタージュの中に時折蓮池さんの拉致被害者としての一面が見え隠れした。 韓国という国は戦後まもなくの日本のように大雑把でおおらかな国なんだなと思った。			
	0-30	30P (20分)	1-30	2010/02/13 22:07:19
ムーディーかまやつ ☆☆☆☆	前半は韓国旅行記です。おまけで北朝鮮との比較がたまにあります。 後半は翻訳家エッセイです。 ってんで、帯のミスリードっぷりに笑ってしまいます。帯読むと誰だって拉致の過程や経験だとかが主題だと思っちゃうじゃないですか。まぎれてはいるけど、ただの韓国ルポです。 そして驚くほどにステレオタイプというか優等生的報告が並びます。もちろん思想的自由のない24年間をおくってきたということもあるのでしょうが、独自な視点が前面に出た物を出版してしまうと変に勘ぐられる可能性があるからなのかもなぁなどと思い、国へ帰ってきても自由な言論活動が出来ない蓮池さんへ同情を禁じえません。世間は彼を一人の人間ではなく拉致被害者としてしか求めていないのです（ローカルな範囲はさておき）。あぁ無情。 良い子ちゃんルポなので癒しを求める方にはいいんじゃないでしょうか。ブログの書籍化のようなので濫読向け。パラパラ読みましょう。			
	1-50,64-75,104-178,242-252	145P (100分)	44-50	2010/01/12 02:52:59

harry ☆☆☆	日本に帰ってこれた喜び、 未だ拉致被害者として北朝鮮にいる者への思い、 自由を奪われた生活へのトラウマ、 そして現在の生活。 すべてがこめられた作品です。			
	全部	252P (240分)	11-12	2010/01/06 14:48:58

TOPへ

物乞う仏陀

著者名	石井光太	発行年	2005年
出版社名	文春文庫	ページ数	341ページ
値段	650円	ISBN	978-4167717919
コメント	石井光太の視線は、正視するに耐えないものも鋭くえぐってゆく。25歳、6000ドルを握りしめて成田から出発して、カンボジア・タイ・ベトナム・インド……。 救いのない現実の連なりに暗然。		

読者投稿欄

コメント登録

ペンネーム お勧め度	コメント			
	読んだ場所	読んだページ数（時間）	立ち読みポイント	投稿時間
NIKI ☆☆☆☆	信じられない世界が広がっていた。レンタルチャイルドがレンタルとしての役目が終わったら、わざと手足を切られたり顔に火傷を負わせたりして物乞いで少しでもお金をもらうために、そうさせられる。そしてそのお金は全部自分のものになるのではなく手元に入るのはほんの一部。 生きていくのが大変な中でさらに自分の意思など関係なく子供が大人たちに利用される。こんな世界があることを知らなかったから知ったことは良かったが、あまりにもすごすぎてこの本をもう一度開くのは無理かもしれない。この部分を読み終わったあと気持ち悪くなった。			
	309－333	25P (30分)		2010/02/15 02:18:00
Caporal ☆☆☆☆	まず思うことは、日本に生まれてきて本当に幸せだと思ったこと。それほどに地獄のような国が存在しているのがびっくりである。また、このような国にもし直接行ったら絶対に考えが変わるような気がする。もしかしたら人生を変えるかもしれない一冊。			
	1-126	126P (78分)	第一章	2010/02/14 03:42:40
つきもち ☆☆☆☆	表紙を見る限りなんか難しそうな本だが中身はとっても読みやすい。東南アジアの裏が見れる本だと思う。 物乞い＝食べ物がないと思いがちだが、まさか女と酒のためとは・・・・そう思うとお金払うのも渋るが、彼らにとってはそれがなくては生きていけないのだろう。日本って豊かなんだなって改めておもった。。。			
	16-34	18P (20分)		2010/02/13 00:55:12
march ☆☆☆	物乞いのネガティブな面だけでなく、ポジティブな面も含めてきちんと文章を書いてあったのが面白かった。			
	1-48	48P (30分)	なし	2010/01/29 15:54:38

PO ☆☆☆	世界にはまだこういう人がたくさんいるのだと考えさせられた			
	全部	341P (210分)		2010/01/11 22:38:21

harry ☆☆☆☆	物乞いも人間として生活している。それだけのこと。女も買うし酒も飲む。 ただし、平和な国で暮らす私たちはやはり大事なものを失ったに違いない彼らのことを忘れてはいけないと思う。 これは現実なのだから。 といいながら、やはりフィクション感覚で読んでしまう自分なのだった。			
	全部	341P (300分)	エピローグ	2010/01/05 22:07:25

ＭＩＡ！ ☆☆☆☆	カンボジアの物乞いリンの話を読み物乞いのイメージが大きく変わりました。 物乞いでもらったお金を酒と女に全部費やしたり、自分をリンチした人と一緒に飲むなどして、ある意味その日その日を自分の思うように強く生きていると思った。			
	1-48	48P (40分)		2009/12/25 23:40:11

トム ☆☆☆☆	時間がなく、カンボジアの物乞いの部分だけ読んだ。 日本人は海外で物乞いに囲まれると、かわいそうだと思い、すぐお金を渡してしまう。そのお金が何に使われるかなどは考えずに・・・ ただお金や物資などを渡せばよいというものではない。相手のことを考えない援助などは、相手のためにはならない。物乞いたちをかわいそうだと思うなら、ただお金を渡してさようならというのではなく、本当の意味で彼らが自立できるように支援していかなければならないと思う。			
	10-48	38P (30分)		2009/11/04 01:13:35

Whatever ☆☆☆☆☆	アジアの最深部に横たわる陰惨な現実に、途中で思わず本を閉じたくなった。「サンソン」「感染地図」などを読んで、時代の暗黒面に対する覚悟はある程度できていたつもりだが、歴史ではなく、21世紀の現実というのがやはり重い。それでも必死に生きる人々の姿に救われる思いで読み進めながら、今年の夏行ったばかりのアジアの路上で、視界の隅に物乞いをする人々がいたのを思い出す。皮膚病の物乞いを見て、思わず目をそらした自分がいた。「一つの論をでっちあげるよりも多くの人々の生き様をそのまま描写しようとつとめた」(あとがき)という著者の言葉通り、今回読者である自分はこの事実をそのまま受け止めることしかできないだろう。同じ視点で考えることは悔しいことだが難しい。			
	全部	341P (240分)	169～209,286～341	2009/11/01 17:13:15

hana ☆☆☆☆☆	本当に重いです。読むのに非常にエネルギーが要りました。 苦しみを抱えながらも助け合い、笑い合いながら生き抜いている姿。しかし彼らをとりまく状況が、あまりに過酷なものに思えてなりません。障害者や病人としてのレッテル、渦巻く麻薬、幼児にたかるマフィアなど、日常と違いすぎて、「社会」の存在自体がよくわからなくなってきます。 今の自分の立場から何を唱えてみても、空虚なものにしかなりえないように感じます。 覚悟を決めてから、読んでみてほしいです。			
	全部	341P (200分)	183-190,263-268	2009/10/23 12:10:19

ねりな ☆☆☆☆☆	何かを論じることなく、記録のように淡々と書かれている点がとても効果的で、かつ十分です。読者に考える時間をくれます。文字を読んで情景を思い浮かべて、それをできるだけ覚えておくことにしようと思います。作者に感謝。			
	10-48,212-248,286-341	132P (100分)		2009/10/20 12:41:42

	地域によって、乞食・物乞いにもだいぶ違いがありました。国によっては惨めさや恥ずかしさをほとんど感じさせなく、そこには明るさもあります。「物乞いの彼らの生活も悪くないじゃないか」			

フィクサー ☆☆☆☆☆	とほんの少し感じすらしました。しかし、そんなことを言っていても、自分はやはり立っている位置が違いすぎました。ベトナムの章で、石井さんがレストランでトイレを借り、物乞いの少年も借りようとするシーンがあるのですが、そこでのレストランの店長の対応を読み、先ほど感じたことは自分が裕福な立場にいるのが前提でのことなんだなと知りました。インドの章はあまりに現実に救いがなく、読むのをやめたくなります。インドでは「不発弾」のような責めるべく「悪」がなく、誰もが被害者で、深く悲しすぎてもうわけがわからなくなってきます。 自分が「なにかを彼らにしてあげたい」と思っても、あまりに別世界のようで、その「なにか」をいくら考えてもすべてが薄っぺらくうそくさいように感じてしまいました。 重すぎて読まなければよかったと感じるかもしれないけれど、読んだならばこういう現実が確かに存在することを認めざるをえません。			
	10-341ページ	341P (320分)	168-193ページ、286-333ページ	2009/10/11 03:57:08

ぴよ彦 ☆☆☆☆	東南アジア・南アジアの物乞いをする障害者を主に描いた作品。物乞いは惨めで哀れと思われがちだが、それでも楽しく幸せに生きる人もいて、中にはサラリーマン以上の収入を得る人もいたりと、物乞いの意外な一面が見られてなかなか興味深い。 しかし、差別・迫害される物乞いが多いのも事実で、特に５章のハンセン病を患った老婆の悲痛な叫びには心が痛む。 それぞれの章が独立しているので好きな章から読むことができるが、８章のインド編はエグい・悲惨なので、そういう耐性のない人は他の章を読みましょう。			
	88-126, 168-248, 286-333	168P (120分)	184-190	2009/10/08 08:55:34

ＴＯＰへ

神の棄てた裸体 ーイスラームの夜を歩く

著者名	石井光太	発行年	2007年
出版社名	新潮社	ページ数	295ページ
値段	1,500円	ISBN	978-4103054511
コメント	印税すべてを握りしめ、彼は再び旅へ出る。28歳になっていた。 またしても、凄まじい現場へ、強靭な精神力で立ち向かってゆく。		

読者投稿欄

コメント登録

ペンネーム お勧め度	コメント			
	読んだ場所	読んだページ数（時間）	立ち読みポイント	投稿時間
あ、あめふと２号 ☆☆☆	はいりが「イスラームの国で男とオンアはどのように裸体を絡ませ合っているのだろう。」というなんともいやらしさを醸し出している本。ただ自分はこういう話は嫌いではないと思っていたのだが、この話はひどすぎる。日本はなんて安全な国なのだろうとつくづく思った。			
	1-45	45P (30分)		2010/02/14 14:39:03
TD ☆☆	生まれた境遇によって人権が無いに等しい扱いを受ける人がいるという事実を改めて思い知った。 少女が娼婦として生きていく描写は読むのが辛かった。			
	1－29	29P (20分)	1－29	2010/02/13 22:13:49
Whatever ☆☆☆☆	物乞う仏陀で、アジアの貧困の底辺をえぐった石井光太が、 今回は戒律の厳しいイスラム世界の「性」をテーマに旅に出る。 イスラムの戒律と、社会の貧困の中で、人々はどのように性に触れ合い、生きているのか。主に、現地に暮らす娼婦たちや、体を売るストリートチルドレン、社会的に認められていない同性愛者たちなどの日常が描かれている。 客観的な視点というよりも、筆者の日本人としての感性そのままに綴られた、体験型のルポであるから、小説に近い感覚で読むことが出来る。 いや、というよりはあまりに悲惨な現実に、小説であって欲しいと願ってしまう。			
	全部	295P (240分)	路上の絆	2010/01/21 22:39:06
	自らが生きるために、「体を売る」「殺す」という選択肢の優先順位が非常に高い世界が、広がっていると感じました。しかしその中で、苦しみを感じている人もいれば幸せを見出している人もいる。 何かと、自分の悩みは大きいのではないかなどと思いがちですが、やっぱりぜいたくだよなあと改めて考えさせられました。 また、当人たちに、作者が質問したり感情をぶつけると、「仕方がない」「どうしようもない」という答えが多く返ってきます。この状況から「抜け出したい」とは思っている人はいるけれども、			

hana ☆☆☆☆	「変えたい」と思う人はあまりいないのかなと思いました。絶対に無理なことだと、彼らの中から打ち消されてしまっているのかもしれません。 多くの犠牲や苦しみの上で成り立っているにも関わらず、社会のルーティーンがある程度できあがってしまっているので、そのままにしていたらずるずると続いてしまう気がします。難しいですが、この事実を知った人が、この流れをどこかつついて崩してやることも、必要なのではないかと思いました。 あと、この本を、女性が書いたらどうなるのかも、読んでみたいと思いました。			
	全部	295P (270分)	p160-180	2010/01/11 15:14:31

トム ☆☆☆☆☆	衝撃的でした。書いてある内容もすさまじいものでしたが、それが作り話ではなく、全て現実であるということに非常にショックを受けました。 物乞う仏陀も少し読みましたが、このようなルポが書けるのは石井光太さん以外にはおそらくいないと思います。			
	1-75, 157-210	123P (150分)	157-210	2009/12/23 17:42:20

日吉本町四丁目南 ☆☆☆☆	日本とは遠く離れた異国での出来事・・・本当だろうか？ 日本には法律もあり、厳しい宗教の縛りも存在しないから、安全が守られているように思えるが、一歩道を外れたら、食べるために身売りする女性・少女・少年・ニューハーフが出てきてもおかしくない。ホスト・キャバクラで稼ぐ人がいて、出会い系サイトがあり、児童ポルノが問題になる世の中なのだから。			
	1-4章	225P (240分)		2009/12/02 01:16:52

harry ☆☆☆☆☆	普段小説しか読まない私がすらすらと読めたのは、きっと日本に住む私たちにとって現実味のない話だから。 戒律の厳しいイスラーム国家での性の実態というのがメインテーマではあるが、それを通して人間の温かさ、心というものが見える本であると思う。 生々しい描写に抵抗さえなければ、ぜひお勧めしたい一冊。			
	全部	295P (240分)	109-111ページ	2009/10/20 00:52:25

TOPへ

絶対貧困

著者名	石井光太	発行年	2009年
出版社名	光文社	ページ数	272ページ
値段	1,500円	ISBN	4-334975623
コメント	石井光太さん。同じ著者の本を３冊というのは異例の事態だけれど、それでも、私たちがおそらく一生関わらずに「済む」（←この２文字をゴチックとして読んでください）であろう世界を、ここまで深く、たしかに、かつ明確な主張とともに届けてくれる書き手さんを他に知りません。 山室的立ち読みポイントは ・45-46ページ メイちゃんのお母さん ・145ページ 花売りビジネスモデル ・259-260ページ 売春宿の子供は高学歴		

読者投稿欄

コメント登録

ペンネーム お勧め度	コメント			
	読んだ場所	読んだページ数（時間）	立ち読みポイント	投稿時間
Got's ☆☆☆☆☆	人間科学概論の林達雄様の授業を受けて借りてみた３冊のうちの１冊。 講義と書いてあるだけあって非常に読み進めやすかった。スラムの実態を書くときに、やはりスラムだから、スラムだからとは書いているものの、憐れみなどは全くもたずに「バカだなぁ」と取材している感じがよかった。 スラムの章を読んだだけで、いくどとなくアダルトビデオやら性の話がでてきて『クオリティーが低いっ!!』と批難していたり、「絶対貧困」なんて重そうな名前がついてるもんだから、構えて読み始めた自分がアホらしく思いました。 批難ではなく、それほど、親しみやすく貧困について理解できる良著だと思ったという事です。また、やはり本質的な部分はどこに住んでようが、どう暮らしていようが、同じ人間なんだなぁと思う事も多かったです。なのに、こんなにも違う…やはり、世界はなんて不公平に出来ているのでしょうかねぇ			
	１章スラム編	89P (20分)		2010/02/15 02:26:48
NIKI ☆☆☆☆	まず自分の生まれた境遇に多いに感謝したいと思う。自分がどれだけ幸せなのか、十分なほどわかった気がする。売春が合法な国があるというのがまずびっくりだった。私達日本とかでは売春をやる人はお金がただ欲しくてやるのだろうけど、貧しい国では違った。生きていくためにする。女性の立場が上がってきていると言われていても、それはごくわずかな豊かな国だけなんだなと思った。			
	100－112、196－264	82P (50分)		2010/02/15 02:16:12
	貧困問題を考える際に、データや統計だけを見て判断する大きな視点だけでなく、実際の人々の生			

トム ☆☆☆☆	活も考慮する小さな視点も確かに大事だなと思った。			
	5-286	281P (180分)	204-215	2010/01/26 12:58:54

harry ☆☆☆☆	石井さんの集大成だと思う。 ちょいちょい読みしかしてないけど。 やっぱり売春婦と貧困地帯は切り離せないんだと思った。			
	1〜14、83〜87	19P (10分)		2010/01/13 22:28:51

PO ☆☆☆☆	自分が、というか日本が恵まれているということがよくわかります。			
	全部	272P (180分)		2009/12/07 23:51:00

ＴＡＫＥ2ＧＵ ☆☆☆☆	スラムの本当の姿が書かれている 今まで持っていたイメージとは大分違うことに驚いた 今まで海外で物乞いにお金をあげたことはなかったが、今度海外に行き、物乞いに会ったらあげるかもしれないと思った			
	1-226	226P (150分)	どこでもOK	2009/12/03 09:53:00

ぷりぷり ☆☆☆☆	貧困地域のありのままを綴っている。 特に218ページ以降の売春編では日本のメディアが報道していることとは違ったことばかりだったので驚いた。			
	1-63 218-281ページ	127P (70分)	218-281ページ	2009/10/26 23:18:53

gpx ☆☆☆	作者自ら路上生活者となり、彼らの目線から生活者集団の生活を紹介している。 日本じゃ考えられないほどの貧困を知ることで、人間の幸せとか温かさとかを感じることができる。			
	84-132ページ	49P (100分)	113-132ページ	2009/10/12 22:46:58

ＴＯＰへ

ITとカースト インド・成長の秘密と苦悩

著者名	伊藤洋一	発行年	2007年
出版社名	日本経済新聞出版社	ページ数	228ページ
値段	1,700円	ISBN	978-4532352417
コメント	インドには興味津々だけれど、『厄介な～』はゴツすぎてどうもね、というかたには、手軽にこちらをどうぞ。取材の幅や深さは『厄介な～』に遠く及ばないけれど、日本人視点の率直さが良さ。 ほんとに、どうしてインド人はオリンピックでメダルを取れない（むしろ、取らない）んでしょうね。		

読者投稿欄

コメント登録

ペンネーム お勧め度	コメント			
	読んだ場所	読んだページ数（時間）	立ち読みポイント	投稿時間
あ、あめふと２号 ☆☆☆☆	やっぱりカースト制度は日本とは考え方が違いすぎて理解しがたいものがあった。日本と違って宗教色が強いということでカースト制度は支配を続けるということに関してはすばらしい制度だと思う。日本の「士農工商」よりは長く続いているわけで…変化を嫌っているのだと思うが。 インドではITの人気が高く、ITは実力を要求していてそれがインドを変えている。そのITがカースト制度を怖そうとしているが、カースト制度は根強く残っているわけで、それがインドの強さになっているようにも感じた。			
	1-240	240P (140分)		2010/02/14 14:54:39
thjam ☆☆☆	読みやすい本でした			
	全部	228P (120分)		2010/02/14 03:58:05
TD ☆☆☆☆	カースト制度を敷いていながらもITで新興国として名をあげているインドは大したものだと思った。 国を代表する企業が自国の資本のものでないという話は、日本ではあまり考えられないことだ。			
	1－228	227P (180分)	1－228	2010/02/13 22:51:18
BLUE BLOOD ☆☆☆☆☆	文章が読みやすく、ネタ的にもとっつきやすいのでページ稼ぎにおススメ。 自分はインドに行ってみたかったので興味があって手に取ったのだけれども。ただでさえ複雑で日本人からは理解しにくい国について、日本人が書いているからまたおもしろい。カースト・貧困・ＩＴなどインドについて関心が高まった。			
	全部	228P (150分)	1-5	2010/01/30 18:51:38

ムーディーかまやつ ☆☆☆☆	紹介本のようなので濫読していこうと思っていたのですが、「おぉラマヌジャン！1729！」とか思ったり、IITすごいよ～とかで東工大生のコンプレクスをうまく刺激されたりして、なんだかんだ最後まで読まされてしまいました。大変に読みやすいです。 しかし読みやすい分、そぎ落とされたところも気になります。たとえば後進的階級の優遇制度への言及。 「被差別者を保護する政策を施せば、かえって差別を助長する」という意見に対し著者は『分かりにくいし逆説的ではあるが、よく考えればその通りであろう』なんて書いたりして。分かりにくいも何も、そんなことは小学校の同和教育を受けた時に誰しも思うことではないでしょうか（教えなきゃみんな知らないで差別も無くなりそうなのに、なんで教えちゃうんだろう…）。「知らないで済ませてるだけじゃダメなんだよ」というのが道徳の授業の教えのはずなのに、筆者は無邪気に「みんな差別を気にしなくなってきたから、下手に保護しない方がいいよね」と、この本を通じて書いているような気がします。インド都市部の世論がそうなのですが、それを特に葛藤もなく著者は受け入れているという… この本の主題は「ある国にはその国ならでは事情があって、自分たちの常識から勝手に覗いてはいけない」ということなのでしょう。もちろん日本とインドでは差別の質も条件も大きく違うでしょうが（だからもちろん日本の方策がインドでも有効だとは決して思わないわけですが）、しかし主題を大切にするあまり自分が日本人であることも、日本で出版されるということも著者の頭の中から切り捨てられているような気もします。たった数ページ、「日本の同和問題では…」って入れるだけなのにね。 まぁしかし著者がインドの文化を人々を、大切に思っていることは伝わりますので、主題をはずさずに最後まで書かれた本だ、と評価はできるでしょう。（偉そうに…（＾ω＾）…）			
	全部	228P (160分)	108-	2010/01/25 20:01:34

えむぽま ☆☆☆	筆者がおとずれたラマヌジャン数学アカデミーの生徒は授業を聞き逃すことなく必死に受けているという。いい大学に入りITの仕事をすることが貧困からの唯一の抜け出し方であるからだ。私たちはどうであろうか？絶対彼らほど必死に授業を受けていない。 インド人は英語を話せるので世界に進出しやすい。それに比べ日本人は英語は苦手であろう。中国にも負けつつある今、授業態度などを含めても日本がインドなどに次々ぬかれていき、負け国にある日も近いかもしれない。			
	47-121	75P (120分)	47-53	2010/01/19 00:40:26

Mikey ☆☆☆☆	私たち日本人はカースト制度に全く縁がないので、インド人のことを理解するのは難しいと思いました。アメリカのちょうど反対側という地理的メリットを生かして、IT産業でお金を稼げるようになったことは良かったけれど、国としてはまだまだ解決しなきゃいけない問題が多いですな。			
	全部	228P (200分)		2009/12/14 23:41:04

iwatobi-penguin ☆☆☆☆☆	友達がインド旅行に行ったので読んでみたわけですけど彼が言ってたことと本の内容が一致してなかなか受けました。ぜひ読んでみてください。インドに魅了されるはずです。			
	1-228	228P (60分)		2009/12/08 05:47:31

Whatever ☆☆☆☆	巨大な潜在的消費人口と、高水準の人的資本を蓄えたITのドル箱。 数千年の歴史を持つカーストという桎梏、凄まじい格差、 自らの手で幸せになりたいと願う人々の情熱は、国を変えるのか。 もがきながらも、その巨大な一歩を踏み出し続ける巨象、インドの今に迫る。 とても読みやすかったですし、興味深かったですが、 やはり実際に行って、見てみたいと思いました。			
	全部	228P (200分)	13~56	2009/10/14 21:57:41

TOPへ

ASIAN JAPANESE 1

著者名	小林紀晴	発行年	2004年
出版社名	新潮文庫	ページ数	368ページ
値段	590円	ISBN	978-4101439211
コメント	甘え、と言えるのかもしれないな。自分探しと称して、いい若いもんが、アジアを何ヶ月も何年も、あてどなく放浪する。ニッポンと比べて物価がめちゃめちゃ安いから、できることだよね。 そんな若いもんのひとりが、バンコクで、バリで、カトマンズで、彼らのポートレートを撮り、それぞれの胸の内を聞き出した。さらに帰国後の彼らにコンタクトして、その後の人生をまた撮った。引き続き自分探し中のひと、ちょびっと夢に近づいたひと。 甘えとも、そうでないとも言い切れない、いまだ旅の途上の彼らの言葉に、彼らのまなざしに、やはり自分探し中のこの場の読者さんたちが、ふっと感応するものがあれば幸い。		

読者投稿欄

コメント登録

ペンネーム お勧め度	コメント			
	読んだ場所	読んだページ数（時間）	立ち読みポイント	投稿時間
Mikey ☆☆	旅をしたいと思う気持ちがよくわからないです。			
	1-52,244-250	59P (20分)	244-250	2010/02/15 02:40:32
Got's ☆☆☆	たしかに「ヨーロッパの情報ならインターネットを見ればほぼ全てわかる。アジアの情報は実際に行ってみないとわからない。」というのはわかるのだが、自分にはアジアはやっぱり独りで行くのは怖いな(汗 というのが正直な感想である。なんとなく独りでアジアに旅してみたなんてかっこいいことをいってみたいとは思ったが、それだけの度胸はないかなぁと・・・。やはり、異国の地は怖いっす。。。			
	1-75	75P (60分)	29-	2010/02/14 23:51:02
名無し ☆☆☆	旅をわざわざ言い訳がましくかっこいい理由つけてる感じが私は好きじゃなかった。つらくて自分がやりたくてやってるんじゃなくてもちゃんと仕事してる人のことをおもってしまう。 でもまぁ…うらやましくはある。 たぶんこれを読んで私のように反発する人もいるんじゃないかなと思います。			
	1-100	100P (90分)		2010/02/04 04:11:19
	アジアへ自分探しの旅に出た日本人達との出会いや語らいについて記されている。 この本を読んで人生の幸福は決して他人が量れるものじゃなくて、どれだけ自分に対する本当の満足感（自己満足とはまったく別物）を感じられるかであり、本人しか知りえないものかもしれない			

まじ ☆☆☆☆	と感じた。 僕らは自分にとって本当に満たされる幸せの形を探しているのかもしれません。			
	1-11,174-240,261-279,304-318	112P (60分)		2010/01/18 21:42:12

harry ☆☆☆☆	自分の身の回りにはない環境という非リアリティと写真によるリアリティのバランスが心地よい。 この手の作品を読むと、必ずどこかで娼婦が出てくる。そこは世界共通なんだと思った。 作者はこの旅を通して本当に自分探しできたのか、それは本人にしかわからない。 エピローグにあった女性の言葉が今の自分には痛いほど刺さる言葉だった。ネタバレ防止のためここには書かないが、まったくそのとおりだと思った。 写真がもう少し多くてもいいと思う。			
	全部	368P (240分)	エピローグ	2010/01/05 20:50:13

trick ☆☆	カメラと普段の鞄以外の荷物を持たずに突然旅に出るのが好きで友人に「自分探し2級」と呼ばれた私ですが、この本はずるい！自分探しの旅はこんなかっこよくないです。たぶん。 でも旅って何かしらを見つけて帰ってこれたりするので、その人たちが見つけた何かの0.1%でもこの本から感じ取れたらいいのかも。			
	1-268 斜め読み	268P (115分)	目をつぶって開いたページ	2009/10/30 16:05:57

BLUE BLOOD ☆☆☆	人生って何だろうみたいな自分探しが疑似体験できるかも。			
	270－303	33P (15分)		2009/10/20 09:42:31

Whatever ☆☆☆☆☆	今年に入って、アジア５カ国に観光に行ったが、自分のはやはり観光であって旅ではなかったよな、ということを再認識した。パッケージツアーにはない出会いと別れ。 写真家である著者が切り取った旅人たちの表情が魅力的。 「その人の旅は、その人に似ていた」 というフレーズが心に残った。 読んでいてすがすがしい気持ちになれた。			
	全部	368P (240分)	気になった写真の人の章	2009/10/14 22:11:35

TOPへ

アフリカ 苦悩する大陸

著者名	ロバート・ゲスト	発行年	2008年
出版社名	東洋経済新報社	ページ数	308ページ
値段	2,200円	ISBN	978-449221177
コメント	不幸な家庭は、それぞれ異なるとトルストイ先生はおっしゃったけれど、アフリカの国家が陥っている不幸は、何だかお互い似通っている。石油掘削機が順調に稼働しているのに内戦に明け暮れるアンゴラの不幸も、奔流のごとき援助に浴し続けながらも日に日に国民が貧しくなってゆくザンビアの不幸も。 どうやら、おおもとの原因は国家というシステムがちゃんと機能していない、という一点に行き着きそうだ。シンプルだけれど重たい結論。 じゃあ、どこをどう改革してゆけばよいのか？ ジャーナリストという、いわば〈野次馬視線〉で惨状をただ記録するのではなく、エコノミストとしての〈分析力〉を武器に、どうしたら、このたくさんの「家」たちが幸福になれるのか、現場からの真摯な問いかけが重ねられてゆく。		

読者投稿欄

コメント登録

ペンネーム お勧め度	コメント			
	読んだ場所	読んだページ数（時間）	立ち読みポイント	投稿時間
TD ☆☆	ゲームや小説のような現実味のない話が書かれていた。悪党としかいいようのない政府と、考えのない人形のように操られて戦争に向かう国民にはリアルを感じることはなかったが、心底怖いと思った。			
	44－69	25P (15分)	44－69	2010/02/13 22:33:29
ねりな ☆☆☆	アフリカの国々が貧困から抜け出せないのは、政府が国民を搾取しているからという話。 解決策として、政府が今後取るべき道を筆者は述べているが、それを読むべきなのは果たして私たちなのだろうか。外国人である私たちが、外国の合法的な悪人に対して何ができるのかまでは、筆者は書いてくれなかった。無駄な援助を（おそらく同時に有効な援助も）減らすことくらいしか、できないのではないのか。			
	1-7,229-262,293-319	68P (40分)	308-309	2010/01/16 21:47:56
えむぼま ☆☆☆☆	アフリカの国々の支配者が人民を搾取するという体制は変わることはないのだろうか。アフリカのほとんどでこのようなことが行われていることに驚いた。 2010年は南アフリカでワールドカップが行われるが、その南アフリカでさえも安定していないことはアフリカが全体としていかに安定していないかを示していると思った。			
	12-144,199-292	227P (250分)	なし	2010/01/11 22:53:22
	アフリカが発展出来ない理由。アフリカ中にはびこっている日本では考えられない理不尽さ。私た			

march ☆☆☆☆	ち日本は多額のお金を援助していますが、本当に援助が役立っているのか疑問に感じました。			
	1-164	164P (60分)	42-43	2009/12/08 19:25:51

ムーディーかまやつ ☆☆☆	さて困りました。時間が無かったので１章とちょっとだけで、面白いところに当たりませんでした… 読んだところはほとんどジンバブエの話でしたが、その辺は2chとかのまとめとかを読んでるだけで十分というか、そっちの方がいいんじゃないでしょうか。著者がちょっとイカれた米覇権主義者みたいなんで、だいぶフィルターのかかった書き方がなされています。 次に読む方は、とりあえず１章は飛ばしていただいてかまいません。拷問シーンがあるので、お好きな方は読めばいいと思いますが…			
	1-50	50P (30分)	分かりません	2009/11/07 22:28:47

ＴＯＰへ

アフリカ・レポート

著者名	松本仁一	発行年	2008年
出版社名	岩波新書	ページ数	199ページ
値段	700円	ISBN	978-4004311461
コメント	『カラシニコフ』の著者が伝える最新のアフリカ情報。 失敗だらけの国づくり、たくましき中国人商人の展開など興味尽きないが、経済学を勉強している社会工学生なら、下記の２点をぜひ考えてほしい。 ジンバブエの惨状について、著者はインフレ率16万%、ハンバーガー１個が3000万ｚドルと紹介し、それもこれも権力が腐敗し、ムガベ大統領が私腹を肥やしたせいだ、と指弾する。 疑問１ 物々交換が常態の国において、通貨を基準にした数値は、どれほど意味を持つのだろうか？ 疑問２ 権力者がスイス銀行に隠し口座を持ったくらいで、国の富がすっからかんになってしまうものなのだろうか？		

読者投稿欄

コメント登録

ペンネーム お勧め度	コメント			
	読んだ場所	読んだページ数（時間）	立ち読みポイント	投稿時間
NIKI ☆☆☆	犯罪をおかして、やり得というのがおかしいと思った。また、貧困黒人層の救出のために海外からも寄付金をもらったりしているのに、犯罪などひどすぎて絶対になおして行かなければいけないのに、一向に進まないし、政府の人間がお金を使ってしまったり、上の人間が腐っていたら下まで回るはずがないと思った。どうにかして、この社会を変えていかなければならない、と思った。			
	54－79	26P (20分)		2010/02/15 03:29:28
あ、あめふと２号 ☆☆☆	ルワンダのフツ族、ツチ族の話や序章のジンバブエから脱出した人の話などを読んでいると、教科書で読んでいた他人事だと思えた内容もかなりリアルに感じられた。おそらくまだまだ他人事であることは間違いないのだが、日本に生まれた事をただただ幸せに感じる。			
	1-52	52P (45分)		2010/02/14 14:46:13
TD ☆☆☆☆☆	冗談みたいに馬鹿な政策をしくムガベ大統領にひたすら腹が立った。今まで貧困の話を読んでも現実味がなくてピンとこなかったが、この本では貧困の理由が明確にされていて怖くなった。			
	1－52	52P (45分)	1－52	2010/02/13 22:04:28
iwatobi-penguin ☆☆☆☆☆	アフリカの悲惨さがひしひしと伝わってきました。恵まれた私たちは勉強しないとばちあたりだという気になれます。そういう私は次の日にはなまけてしまっていますが・・・。			
	1-200	200P (150分)		2010/01/18 22:28:05

Caporal ☆☆☆	ジンバブエのインフレ率にびっくり！ こんなめちゃくちゃな世界があってよいものなのだろうか。もはやギャグに思えてしまうほどの惨状だと思う。その中で生きている人たちも貧困や犯罪にめげずにがんばっているところを想像すると胸が痛い。			
	P　-　　、1-79	90P (35分)		2010/01/05 11:07:05

アルフ ☆☆☆☆	ちょっと前超インフレで話題になったジンバブエのとこだけ読みました。 白人の支配から解放されたと思ったら、もっとひどい同胞に牛耳られてしまったというお話。 これは南アフリカにもちょっと共通してますね。			
	15-52	38P (30分)	15-52	2009/12/22 03:26:21

ソロコフ ☆☆☆☆	アフリカの現実を理解するのに時間がかかりました。字面では最近の話であると読んでいるはずなのに、大昔の話なのではないかと思ってしまうくらいひどい状況だなと思いました。 政府の腐敗で外国からの援助が国民に届かない状況では金銭的な援助ではない援助が必要であるが外からの押し付けの援助は意味がない、、という話は前期に人間環境の計画史で聞いた町づくりの考え方に非常に近いなあと思った。			
	全部	199P (250分)		2009/12/18 23:03:32

Whatever ☆☆☆☆	アフリカの年と呼ばれた1960年から半世紀。かつて欧米列強に搾取され続けてきた植民地は、今、確かに黒人たちのものになった。しかしその力関係は決して変わっていないように思う。 アフリカがなぜ貧しいのか、深く考えたことはなかったが、政治的な立場の弱さや、人的、技術的資本の不足など、不可抗力の要素ばかりが強調されてはいないだろうか。 このルポは、問題の本質が、彼ら自身の政治腐敗によるものであることを指摘する。 人口の上位数%が富の大部分を独占する。そんな格差社会の構図は、沢山の先進国が向き合っている問題に似ているが、ここはアフリカ。問題が生じれば、それは即、死を意味する。 ODA拠出大国の日本は、自分たちのお金の使われ方を知っているのだろうか。現状を知る関係者は苦笑いをする。クリスマスの街頭に並ぶ募金箱は、私腹を肥やす権力者を潤しているだけかもしれない。かの人類発祥の地は枯れていくばかりである。 疑問1：物々交換が出来る人間は限られているし、給与生活者は生きられないよな、と思っていましたが・・・現在は米ドル、南アのランドが基本的に使われているようですね。国民の信用もないジンバブエドルのインフレ率は確かに無意味だと思います。経済が破綻したことを示す証拠ではあるでしょうが・・・ 疑問2：p43に指導者が私物化した公的資金は海外銀行に蓄財され、、社会資本に回されることはない、とあります。当のムガベ大統領はスイスには口座を持っていないようですが。権力の集中が著しい国ほど、同じようなことがまかり通っているのではないでしょうか。			
	全部	199P (300分)	2-13	2009/12/07 23:26:12

えむぽま ☆☆☆☆	アフリカの諸問題にはいつも人種差別という問題が根底にある。それは、黒人が政権を握ってからも変わらない。 われわれ日本人は、部族同士の対立などの問題を身近に感じていないので、そういうものなのかと思うだけかもしれないが、実は身近にアフリカの問題はあるのだ。 原宿の外人たちへの見る目が変わるかも。			
	2-200	199P (200分)	32-35	2009/10/30 01:06:48

TOPへ

日本列島の２０億年

著者名	白尾元理	発行年	2009年
出版社名	岩波書店	ページ数	100ページ
値段	1,900円	ISBN	978-4000057707
コメント	写真がすばらしい。特に空撮。鳥の目でしっかりと山や川が、どんなふうに地形をつくってきたかが見てとれる。ナンバー20の新雪富士にほれぼれ。 解説が、もっと愛想良かったらなあ。できればイラスト入りがあらまほしい。良い企画なのに、そこがホント惜しい。		

読者投稿欄

コメント登録

ペンネーム お勧め度	コメント			
	読んだ場所	読んだページ数（時間）	立ち読みポイント	投稿時間
NIKI ☆☆☆☆	火山が作った風景で焼岳のがこんなに美しい風景が生まれることに感動しました。何億、何十億年とかけて生まれるこの神秘的な風景はなんとなく自分達人間の小ささを気づかされる気がします。			
	全部	100P (60分)		2010/02/15 01:00:29
フィクサー ☆☆☆☆	解説の部分はちらっとみたらあまり面白くなかったので、写真を眺めました。日本にもこんなところがあるのか、と、海外旅行に行きたがってる自分に、日本にもまだまだ行くべきところがあるなと思いました。まず写真の部分だけみて、興味がわいて深くしりたくなったところを、後ろの解説で掘り下げればいいと思います。			
	1-50ページ	50P (30分)	写真	2010/02/14 02:07:52
リリー・アリゾナ ☆☆☆☆	美術館で絵を鑑賞するような感覚で地球の様々な姿を知ることができた。中にはおよそこの世のものとは思えない光景もあり、ぞくぞくした。特に浦島太郎寝覚の床と火山が作った風景ー焼岳と大正池が美しかった。 人間の力では到底制御できないような巨大なエネルギーが地球には満ちているということを改めて感じさせられた。			
	全部	100P (60分)		2010/01/29 23:27:39
つきもち ☆☆☆☆	写真を見て、興味を持ったら後ろの解説を読むといいかも・・・ 何の変哲もない岩の写真だが、これらができるのにとんでもなく長い年月がかかっているのを思うとしみじみとなってしまう。 自分が好きな写真は26,28,35,41,42の5枚。どれも高校の地理で習った地形であの頃が懐かしい・・・（笑）			

	9-70	61P (20分)	26,28,35,41,42	2010/01/06 02:11:37

日吉本町四丁目南 ☆☆☆☆	33の大正池や43の秋芳洞は、自然が勝手に作った環境で、とても神秘的だが、それとは別に、立ち読みポイントにも指定した最後の４つは、人間の営みが自然と一緒になっており、寧ろそちらの方が美しいとも思ったし、人間が関わるぶん解説もわかりやすかった。 最後50番の東京の空中写真は、緑も地形も見られない非常に残念なところだと筆者は評しているが、今現代に生きている人間としてこのような都市の空間も必要だと思った。 また、個人的に41の扇状地は、巨大なスケールの扇状地の上に、雪に覆われた田畑や町が点在しており、とても魅かれる写真だった。 もっと地質学の知識があれば、もっと深く読むことができる点が残念だ。			
	全部	100P (60分)	Ｎｏ47～50（解説は97・98ページ）	2009/12/22 01:12:23

march ☆☆☆☆☆	日本の地形や生い立ちの一部がわかる本。よくある写真からどこにでもありそうな写真、そしてビル群や町さえも国土形成の一部としてきちんととらえている。解説は補助にすぎないと思う。だから、写真をじっくり眺める方がいいと思う。			
	1-100	100P (60分)	28項	2009/12/19 14:21:57

BLUE BLOOD ☆☆☆☆	都市とか町ばっかり眺めてるとつい忘れてしまうんですが、日本って地球って肌が岩なんだなあと。そしてきれいな肌を見た後、50ページの東京の俯瞰を見てください。おぞましい。			
	1－100	100P (30分)	25－28	2009/12/15 12:27:28

PO ☆☆☆☆	このような自然や景色を守っていきたいと本気で思いました。			
	全部	100P (30分)	32,33	2009/12/01 00:20:00

とんぺい ☆☆☆☆	日本の美しい風景が気軽に見れ、解説も読めるいい写真集だと思う。個人的には51ページの穂高連峰の氷河地形の写真が一番好きです。知床とかの写真がなかったのは少し残念でした。			
	全部	100P (50分)		2009/10/29 16:27:16

ぷりぷり ☆☆☆☆	秋芳洞の石灰華段丘の写真は小さい時に見たそれよりも美しくすごく尊いものに感じた。自然の美しさを再認識できる書物である。 また、解説も載っているのでとてもわかりやすいです。			
	1-100ページ	100P (30分)		2009/10/20 13:09:26

だいすけもん ☆☆☆☆	前半が写真で、後半がそれぞれの写真の解説。写真をパラパラと見て、気になる写真の解説を見る感じ。濫読にはもってこいの本。			
	8-71、75、95	65P (40分)	8-71	2009/10/20 06:19:50

gpx ☆☆☆☆	地層の縞模様といった小さい単位の自然の美しさや不思議さから始まり、フォッサマグナや火山や山々の迫力、荘厳さまでをきれいな写真で見ることができる。 解説も、嘘じゃないかと思うくらいの自然の大きさを教えてくれる。（桜島の噴火で東北地方北部まで火山灰が飛んだとか） 最後の写真は東京全体の航空写真で、高層ビルなどが立ち並んだりしているが、小さく見えた。			
	1-100	100P (60分)	1-71	2009/10/12 23:16:58

ＴＯＰへ

歴史が教えるマネーの理論

著者名	飯田泰之	発行年	2007年
出版社名	ダイヤモンド社	ページ数	185ページ
値段	2,000円	ISBN	4-478001639
コメント	円とドルの話ばっかりじゃ、単調だし飽きるよね。 だから江戸時代に行ってみました。金銀小判がざっくざく。 歴史の良さは、すでに結果が出てるから、ものごとの因果関係がすっきり見えやすいこと。そのメリットをうまく生かして貨幣論の要諦をていねいに伝授してくれます。 それにしても、世の中、単純から複雑に向かうのが流れなのに、経済の根幹を支える貨幣については、なぜか前近代のほうが複雑怪奇、金建て銀建て銭建てと多様な貨幣大系が並立してて、しかもしょっちゅう貨幣改鋳してるし、これでどうやって市場が機能してたんだろ、江戸時代の商人のほうが頭イイってこと？ なんてのが最近の山室のひそかな関心事です。		

読者投稿欄

コメント登録

ペンネーム お勧め度	コメント			
	読んだ場所	読んだページ数（時間）	立ち読みポイント	投稿時間
肉 ☆☆☆	経済系の本がいろいろある中で、これは今習っている分野に近い。 なので、がんばって読んでいったが、力尽きた、、、 結局、謎でした。			
	1-35, 74-104	66P (70分)		2010/02/10 19:15:23
とんぺい ☆☆	マクロ経済の教科書もどきですね。 縦書きのぶん数式とかが少なくて、逆にちょっと読みにくかったです。 一応経済系志望の僕としてはホントの教科書読めばいいかなって感じです。			
	1-64	65P (90分)	んー・・・	2010/02/08 13:11:31
うろくた ☆☆	注：40pを適当につまみ食いして読んだ感想です。参考にはならないかも知れません 長い。タイトルに釣られたけどちょっと鬱陶しい本だった。真面目。 僕は事象の説明に、あえて昔の似たような事例を用いて説明する必要性を感じなかったので、あまり面白くなかったし、興味も沸かなかった。（そもそもこの本を手に取ったのが自分には間違いだったと思う）			
	つまみぐいした	40P (30分)	立ち読みする本ではない	2010/01/21 15:35:12

iwatobi-penguin ☆☆☆☆☆	読みにくいというコメントが多いですが、歴史的な事例を取り上げて数式も最小限に抑えて話が展開されているので実はその辺の経済学の教科書よりもずっと理解しやすく経済学の大事な部分を学ぶには最適だと思いました。敬遠せずに読むことをお勧めします。			
	1-185	185P (120分)		2009/12/16 07:50:55

りょへ ☆☆☆	いやぁーーーーー読みにくい！！ いい本なんだけど、理系の俺にはちょっと荷が重い…って感じです。。。だってマクロ経済学ガンガン出してくるし。 楽しいんだけどねー２年後に読みたいって感じの本です。。			
	全部	185P (200分)	なし	2009/12/06 02:37:36

くま ☆☆☆	国際(マクロ)経済学の本なので、ほかの教科書的な本をつまみ食いしてないと読み辛いかもしれません。 日本の歴史、特に江戸時代を中心とした話が多いです。士農工商であった社会において、政府（この場合幕府）がすべき政策が、上の階級身分に対してなのか、下なのかによって変わるってところが印象に残ってます。 前コメントでもありますが、立ち読み・つまみ食いには向いてない本だと思います。著者が論理的に詰めていくんで、前のことが理解できないと苦しくなっていきます。なので星も三つにしてあります。			
	全部	185P (240分)	最初の部分	2009/11/04 11:13:14

ぴよ彦 ☆☆	マネーや物価、景気などの関係を過去の具体的な例を用いながら説明されている。しかし、内容は結構ディープなことまでやっているので、序盤の方の理解が曖昧だとページが進む度に頭が混乱してくる。理系人としてはもうちょっと数式を交えた一般的な説明が欲しい。 また、前の章での知識を踏まえたうえで話が進んでいくので、立ち読み・つまみ食いのような読み方はお勧めできない。			
	1-143	143P (140分)	なし	2009/10/12 15:36:41

じゃい ☆☆☆☆	一章では、近代の経済史をとりあげて、経済の性質をわかりやすく解説しています！ 具体例を基に説明をしているので、大変読みやすく、理解しやすい！！ ただ、途中だけ読もうと思うと、理解しづらいところがあるかも・・・？			
	1-89	89P (100分)		2009/10/09 13:20:04

TOPへ